



**同窓会員
技能五輪で大活躍!!**

第62回技能五輪全国大会

2024年11月22日～25日にかけて昨年に引き続き愛知県の国際展示場など13会場で開催された。同窓生から41名が競技に参加した。結果は、金賞…2個、銀賞…8個、銅賞…2個、敢闘賞…8個の結果となった。

今回のトピックスは、笠戸事業所が参加2年目で金賞・銅賞と敢闘賞を獲得した。選手は勿論、指導員並びに事業所スタッフに対し敬意を表したい。

また、大みかの工場電気設備職種で2年選手が金、1年選手が銀というのも快挙である。

◎金賞



〈旋盤〉
片野 諒人氏
(108卒・笠戸)



〈工場電気設備〉
渡部 晴雅氏
(108卒・大みか)

◎銀賞



〈構造物鉄工〉
伊藤 光希氏
(108卒・日立産機勝田)



〈メカトロニクス〉
小倉 旭陽氏
(107卒・那珂)



〈メカトロニクス〉
伊藤 卓真氏
(107卒・那珂)



〈構造物鉄工〉
竹田 昂氏
(107卒・日立)



〈電気溶接〉
寺門 颯真氏
(107卒・日立)

印刷所
大成印刷株式会社

第467号

2025年1月17日発行
日工同窓会広報委員会
編集責任者

瀧澤 之靖
発行人 細金 敦

日工同窓会事務局
日工同窓会館
〒317-0077
日立市城南町5丁目14番13号
TEL (0294) - 21-5237
FAX (0294) - 21-5241
E-mail:
dosokaij@net1.jway.ne.jp
http://nikkoudousoukai.net/

印刷所
大成印刷株式会社

◎銅賞



〈電気溶接〉
黒田 大貴氏
(109卒・笠戸)



〈プラスチック金型〉
野尻 佳希氏
(108卒・佐和)



〈旋盤〉
郡司 煌都氏
(108卒・土浦)



〈電気溶接〉
佐藤 拳氏
(108卒・水戸)



〈精密機器組立て〉
関根 一輝氏
(108卒・佐和)



〈工場電気設備〉
田中 秀貴氏
(109卒・大みか)

今号の主な内容

技能五輪全国大会メダリスト

会長・代表副会長新年のご挨拶

支部長年頭挨拶

年男・年女

黄綬褒章、県知事表彰、

技能五輪入賞者

学校だより

本部会員の頁

日専校歴史写真、75卒同期会

技能五輪競技風景

12面
11面

6面

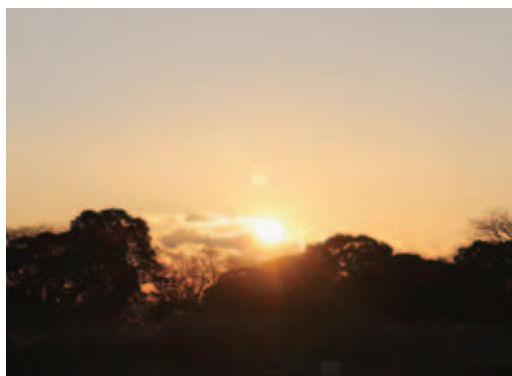
4面
5面

3面

2面
3面

1面

あけましておめでとうございます。
本年も広報委員会一同、同窓会の皆様に親しんでもらえる会報づくりを心がけて参ります。



日工同窓会館から望む初日の出
(鈴木光彦(78卒)撮影)

今泉会長 新年のご挨拶

「挑戦と変革の年」



明けまし

ておめでと
うございま
す。同窓会員
の皆様にお

かれましては、2025年の新春を
健やかに迎えのこととお慶び申し
上げます。

昨年も申し上げましたが、新年元
日に能登半島地震が発生し、冷や汗
を掻きました。

この挨拶文も、年内12月中旬に
書いていますので、年明けの状況は
実はわかりかねます。「縁起でもな
いことを言うな」とお叱りを受けそ
うですが、気象問題、国際情勢など、
今の時代は斯様に先行きを予測でき
ない不透明さを増しています。

昨年2024年は、何と言つても、
「地球温暖化」を実感した年でした。
産業革命前と比較して、世界の平均
気温が約1.5度上昇し、記録上最も暑
い年となりました。原因となるのは
言うまでもなく、温室効果ガス、石
油や石炭などの化石燃料を燃焼させ
る際に発生するCO₂（二酸化炭素）
です。日本国内でも、最高気温が35
度以上の猛暑日の延べ地点数が1万

を超えて過去最多となるとともに、
福岡市や大阪市、名古屋市などの年
間猛暑日回数も過去最多になりました。

同窓会の皆様も、「このままでは、
やがて地球で暮らしていけなくなる
のでは?」と危機感を覚えられたの
ではないのでしょうか。さて、その
ような中でも、昨年の日専校卒業生・
同窓会員の活躍には、目を見張るも
のがありました。

9月にフランス・リヨンで開催さ
れた「第47回技能五輪国際大会」で
同窓生4名が日本代表として3職
種に出場し、CNC旋盤で銀メダル、
溶接で7位の敢闘賞入賞。インダス
トリー4.0にも1チーム2名が出場し、
惜しくも入賞を逃しましたが、健闘
しました。11月に開催された「第62
回技能五輪全国大会」では、同窓生
が金賞2・銀賞8・銅賞2・敢闘賞
8という輝かしい成果を挙げました。

また、令和6年度春の瑞宝単光章
を中山龍一氏（68卒・本部）が、秋
の黄綬褒章に高橋忍氏（72卒・那珂）
が受章、卓越した技能を持つ「現代
の名工」を堀川一巳氏（68卒・土浦）
が受賞されました。いずれも、日本
のモノづくりへの多大な貢献を評価
され、榮譽を受けられたことに、改
めて敬意を表します。

日専校の1年を振り返ってみます。

3月に67名が無事卒業。4月に75名
の新入生を迎えました。昨年度入学
者から、1年間は学科分けをせず電
気・機械・溶接の3職種を3分の1
ずつ学ばせる総合科をスタート。7
月末〜8月の「第19回若年者ものづ
くり競技大会」では、旋盤で金賞、
フライス盤で銀賞、メカトロニクス
で敢闘賞を受賞。先ほど申し上げ
た「第62回技能五輪全国大会」では、
在校生1名が電気溶接職種に出場し、
入賞には至りませんでした。時間
内に課題を作成・提出することが出
来ました。

10月には、寮に、小型の売り場に
サイネージ、センサー機能、生体認
証などの最新技術を組み合わせた、
日立無人コミュニケーション店舗
「CO-JURIBA（「ウリバ」）を導入し
ました。これは、日立製作所金融シ
ステム営業統括本部からの「日専校
の生徒が最先端の技術に触れ、学校
内のコミュニケーション促進に役立
てて欲しい」との申し出と、常陽銀
行からの生徒に対する各種金融サー
ビスや金融教育実施の申し出とのコ
ラボレーションにより実現したもの
です。NHKのローカル放送始め新
聞各紙など多くのメディアに取り上
げられ、日専校の存在が大きくク
ローズアップされました。

12月の入学試験選抜では75名の合

格者を出しました。いずれも、モノ
づくりに興味を持ち、将来の同窓生
として配属後も活躍出来る可能性を
秘めた生徒を、時間を掛けて多面評
価して決定しました。尚、その内の
女子生徒の合格者数が、これまでの
1学年数で最多の9名となりました。

また、同窓生の活躍ぶりが改めて
日立製作所幹部から評価され、昨
年「さらに、日専校はグローバルな
モノづくりのメッカ（中心）をめざ
せ」との激励を頂戴しました。大
変嬉しい反面、大変重い宿題でもあ
ります。

本年4月に新社長に就任される徳
永さんも、昨年12月の社長昇格発
表記者会見で「デジタルを核にして
グローバルリーダーの歩みを加速す
る」ことを強調されています。この
方針は、モノづくりに関しても同様
です。

従って、日専校の役割も、「グロー

ら詳細を検討しなくてはなりません
が、今年2025年は、その新たな
取組みの元年になるはず。奇し
くも、今年は巳年（へびどし）。蛇
が脱皮を繰り返して新たな姿に生ま
れ変わる姿から、「新しい挑戦や変
化に前向きな姿勢を示す年」「成長
や変革、再生の年」と言われていま
す。既に創立から第2世紀に入って
いる日専校の新しい歴史を作り始め
るために、これほど、ふさわしい年
はありません。

最後となりましたが、会員の皆様
とご家族の皆様のご健勝と本年が
実り多き1年となりますことを心よ
りお祈り申し上げ、新年のご挨拶と
いたします。

鈴木代表副会長挨拶



明けまし

ておめでと
うございま
す。会員の
皆様におか

れましては、

健やかに新年をお迎えのことと、お
慶び申し上げます。また、日頃より
同窓会活動に対し、ご理解とご協力
を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ると、元日に、石川・

（3頁へ続く）

(2頁の続き)

能登半島を震源に最大震度7の地震が発生し、多くの方々が被災されました。寒の入りが迫る最も寒い時期でもあり、その後の避難生活にも大変苦労されるなど、復旧の作業は今年お続けているようです。日工同窓会においても、一昨年の5月に日立製作所が示した電力流通事業の再編にともない、1月に国分支部から会員の異動を理由に解散届けが出され、これを受理しました。事業再編によるものと承知しつつも、歴史ある大きな支部の解散に、大変衝撃を受けました。当事者である会員の皆様には、新たな職場や部門での活躍を、心より祈念申し上げます。

会員の減少が進む近年の状況を踏まえ、本部も運営のスリム化や合理化に向けて検討を進めております。そこで、昨年の支部長研修会は、「今後の同窓会の在り方」について、意見交換をさせていただきました。支部長の皆さんからいただいたご意見や思いを、今後の運営に活かせるよう、努力してまいります。一方で明るい話題は、夏以降に開かれた活発な支部行事の賑わいです。開催の連絡をいただいた支部の企画はどこも大盛況で、昨年も本部から役員を派遣することができ、うれしく感じました次第です。2024年パリオリン

ピックが開催されましたが、日本は、金メダル20個を含む、45個のメダルを獲得しました。

11月に愛知県国際展示場他で開催された第62回技能五輪全国大会には、一昨年に続き、今大会にも沢山の若い同窓会員が参加しました。活躍された選手の皆さまを大変に誇らしく思うとともに、関係者の皆さまに同窓会を代表して感謝の気持ちを伝えたいと思います。

2025年の干支は、乙巳（きのと・み）です。「多くの人にとって成長と結実の時期」となる可能性が高いのだとか。会員の皆様そして皆様のご家族にとって良き1年になりますよう祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

・・・・・・・・・・・・・・・・

支部長新年の挨拶

建機支部 太平 英樹（76卒）



明けましておめでとうございます。皆様には

お迎えのこととお慶び申し上げます。建機支部は、茨城県土浦市にある日立建機株式会社土浦工場を拠点として霞ヶ浦工場・那珂工場・臨港工

場・龍ヶ崎工場の5工場から構成されており会員数は76回卒から109回卒と幅広い世代の会員68名で活動をしております。

日立建機株式会社は、油圧ショベル、大型・超大型マイニング油圧ショベル、リジッドダンプトラック、ホイールローダと世界中の社会インフラや産業を支える建設機械を多岐にわたって製造、販売、レンタルをしております。近年では、気候変動問題や環境負荷への配慮はもちろんカーボンニュートラルの実現に貢献する環境配慮型製品の拡充をはじめICT・IoTを活用した事業の拡大を通じて社会・環境・経済的に価値のあるソリューションを提供し続けております。また、新たな株主パートナーを迎えいれ『第2の創業』としてさらなる飛躍をめざして幅広い職場で活躍しております。

支部の活動としては、コロナ禍で活動を自粛していましたが感染症法に規定される5類感染症に移行して少しずつではありますが生活環境が戻りつつあります。コロナ禍前のように支部全体での親睦会の開催は出来ていないのが現状です。また、支部同窓会活動についても大きな転換期を迎えておりますので、今後はこれまでの諸先輩が築いてきた伝統を継承しつつ環境の変化に柔軟

に対応した誰もが参加して楽しい支部活動を役員一同で考えて活動して行きたいと思っております。

最後になりますが、日工同窓会の益々の発展、会員のみなさまのご健康とご多幸を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

土浦北支部 太平 悟（74卒）



明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、会社の転身支援制度により、2名が早期退職しました。

そもそも23名小規模支部の為、早期退職は痛手でありました。

さて土浦北支部と聞いてピンとこない方もいらっしゃるのですが、支部紹介をします。昔の支部名は【電線土浦】です。他支部でもあるあるでしょうが、社名変更に伴い支部名も【土浦北】に変更しました。現在の社名は【プロテリアル金属】であります。

当工場は銅を主成分に、他の材料を合わせる事で付加価値を付けた製品をお客様に提供しています。一般市場では直接目にする製品はありませんが材料メーカーとして製品製造しています。主力製品は金属材料のクラッド材となります。電池関連などに使用されています。2018年から製造開始した製品ですが、同窓会員も職場の主力で活躍しています。

支部活動ですが、冒頭で説明した早期退職者が出ましたので、激励会（飲み会）を開催しました。参加率は80%ととても良く、特に若手会員がコロナ禍で親睦の場が少なかったので、激励会ではありますが、会員同士の親睦を深められました。

また若手会員のみでの親睦会も開催でき、工場内では中々会えないのですごく良かったとの意見もいただき、今後も継続させたいと思います。

支部活動では大きな事はできませんが、会員同士が顔を合わせた時に気軽に話ができる雰囲気を作りたいと進めて行きたいと思います。

最後になりますが、日工同窓会会員の皆様とご家族のご多幸をお祈り申し上げます。



2025年

年男・年女

「巳」

「新年を迎えての抱負」

千葉 卓
(81卒・日立)

明けましておめでとうございます。

月日が経つのも早いもので、4回目の年男を迎えることになりました。これまでを振り返ってみると、海岸工場に入社し、大みか工場、山手工場と渡り歩き、海岸工場時代には2度の出向もありました。また、職種も製造、設計と経験し、現在は調達として日々精進しております。ここまで職場環境が変わりながらも無事に過ごせたのは上長、同僚そして同窓会員に恵まれたと感謝しております。

さて、新年の抱負ですが、上の子が40歳になる時に生まれた子でまだまだ幼いのであるが、さらに幼い下の子の運動会の際は親子競技で、ちよつと走っただけで足を攣るという情けなさから体調管理と動ける体づくりです。ここ数年、毎日

「新年の抱負」

渡部 大樹
(81卒・日高)

明けましておめでとうございます。日専校を卒業して日高工場に配属となり私も今年で48歳になります。これまでの日々を振り返り、無事に過ごせたのは職場の上長や同僚、そして同窓会の支えがあつてこそだと感謝しております。

さて、今年の抱負は家族との時間を大切にすることです。私には2人の娘がいますが、2人共社会人になり1人は他県で一人暮らしを始めました。今は月1程度帰って来ますが、家族全員揃うことが少なくなり、成長を実感する反面、寂しさも感じています。今後は、限られた少ない時間の中でもコミュニケーションを大切に、家族が円満で

1万2千歩を目標に歩くことを継続しておりますが、持病のヘルニアもだいぶ癒えてきたので、ジョギングを再開し、子ども達と駆け回れたらと思います。

最後になりますが、同窓会員の皆様が健康で実り多き1年になりますよう祈念し新年の抱負とさせていただきます。

過ごせるよう尽力したいと思います。最後になりますが、同窓会員の皆様とご家族様の健康と安全を祈念いたしまして、私の抱負とさせていただきます。

「新年の抱負」

小野塚 一弘
(81卒・中条)

明けましておめでとうございます。新年を迎え、「2025年問題」について考えました。これは団塊の世代が75歳を超えることで、医療、介護等の社会保障費が増加する問題です。

私の親も団塊の世代です。一緒に生活していると、親の体力低下を感じる場面も増えました。そこで、新年の抱負は、「住宅のリフォームを行う」とします。

まずは、①階段に手すりを付ける。②床の段差を無くす。この2点に手を加えます。それと同時に悩んでいるのが、玄関周りの雪対策、除雪作業をどうするかです。

旧家では自然落下式屋根で、道路側に消雪パイプを設置したことがありません。しかし、寒冷期になると雪が凍り付いて屋根から落ちなかったり、消雪パイプは水が凍って、雪が

「吾輩は巳である」

関口 岳志
(93卒・佐和)

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。この度、93回卒を代表し、筆をとらせてもらえる事となり、非常に光栄に思います。

振り返れば、人生35年、山あり谷あり谷底ありの会社・プライベート人生という所で逐一、一喜一憂しているわけではありますが、僕だけではなく、皆様に良い事悪い事を消化しながら日々生きているのかと思うと、人に対して静かな尊敬が芽生え始めた、そんな頃合いでございます。

そんな中、会社・同窓会に対して反発に似た感情を持ちながら勤務していた時期もありましたが、こうし

解けなかつたりと、問題もありました。しかし積雪は年間で3か月ほどしかないもので、雪対策はコスパを考えると悩ましいところです。とはいえ、老親が安心して生活できる環境を整えていきたいと思っています。

最後になりますが、会員の皆様の健康と飛躍を御祈念申し上げ、新年の抱負とさせていただきます。

「新年の抱負」

加瀬 友裕
(93卒・土浦)

て寄稿する機会をいただけたことに幸せを感じております。ありがとうございます。

巳年は、古くから成長や変革の年と言われ伝えられているそうです。今年1年、皆様の確かな成長や変革が実りある物になる事を祈り、蛇足ながら結びの言葉とさせていただきます。

蛇の道は蛇、みたいな・・・

明けましておめでとうございます。日専校を卒業後は日立プラントテクノロジ（現日立インダストリアルプロダクツ）に配属され、18年間に様々な変化がありました。技能五輪への挑戦や日工専入学、社名の変更、労働組合への専従、配置換えによる業務内容の変更、他社への出向など。そんな中でも無事にやってこれたのも日専校の仲間をはじめとした周囲の協力があつてこそだと感謝しています。

さて、今年の抱負ですが、3児の父として家族を支えていくことを第

(5頁へ続く)

〔4頁の続き〕

一と考えています。業務多忙により中々早く帰ることが出来ない状態が続いているので、業務は割り切って早く帰るようにし、家族との時間を増やして、仲の良い家庭を築いていきたいと思っています。

最後に日工同窓会の皆様にとって新しい年がより良き年になりますよう祈念し、新年の抱負とさせていただきます。

「新年の抱負」



野尻 海斗
(105卒・日立パワー)

明けましておめでとうございます。月日が経つのはとても早く、日専校を卒業してから5年という月日が経ちました。これまで無事に会社生活を送れているのは、同窓会会員の皆様をはじめ上司や職場の方々等多くの皆様の支えのおかげです。心より御礼申し上げます。

私は、これまでの会社生活で技能五輪や笠戸事業所への出向等、多くの経験をさせていただきました。笠戸での生活は慣れない地という事もあり不安が大きかったのですが、五輪選手時代の先輩や他事業所の指導員、委員の方々との繋がりもあり、とても充実した生活を送る事ができました。技能五輪をしていなければこの繋がりも無く、笠戸での生活にも馴染めなかったかもしれせん。顔と名前を知ってもらえている事、繋がりがある事の大切さを改めて知った良い経験でした。2025年も積極的にコミュニケーションを取り、多くの人との関係を築くことを目標とし、日々努力をしていこうと思います。

「新年の抱負」



鈴木 美希
(105卒・建機)

あけましておめでとうございます。早いことに、2025年は私が日専校を卒業してから6年目を迎える年です。ここまで順調に会社生活を送ることができたのは、職場や上司の方々、そして日工同窓会の皆様温かい支えがあつてのことです。心より感謝申し上げます。

現在、私は自部署を離れ、日工専

不足で落ち込むこともあります。尊敬する先輩方に助けられ、とても充実した時間を過ごしています。最近

は、業務の幅も広がり製品知識を習得することで、やりがいや楽しさを実感しています。今後は、先輩も増えたので自分の事だけでなく、周りを気に掛ける余裕を持てるように努力していきたいと思っています。また、体調にも気をつけたい心身ともに健康で充実した1年になるように日々取り組んでいきたいと思っています。

最後になりますが、同窓会会員の皆様健康で幸せな1年になりますように祈念し、新年の抱負とさせていただきます。

にて研修を行っております。この1年は、成長を実感する日々を送ってきました。特に英語の学習においては、入校前と比べてTOEICのスコアが200点近く向上し、これは私にとつてとても大きな成長を実感することが出来ました。毎週3回行われるテストに向けた対策や、日々の学習の積み重ねが、自分を成長させる良い機会となりました。

2025年は、これまでの9か月間で学んだことを活かし、さらに成長を続ける年にしたいと考えています。これまで研修を通じて培った知識やスキルを実際の業務に応用し、より効率的かつ効果的な働き方を追求していきます。新たな挑戦や課題にも前向きに取り組み、常に自己改善をめざし努力を重ねていくつもりです。

最後になりますが、同窓会員の皆様健康で実りある1年になりますよう祈念申し上げ、新年の抱負とさせていただきます。

「新年を迎えての抱負」



芦澤 優知
(105卒・厚木)

明けましておめでとうございます。今年で日専校を卒業してから5年と

いう月日が経とうとしています。

日専校を卒業後、私は日立Astemo株式会社厚木サイト第二工場製造部保全課に配属されました。配属後、2年間の技能五輪選手生活を経て復職し、現在は保全課の一員として日夜製造ラインの設備修理に励んでおります。5年という短い月日はありましたが、様々な経験をさせていただきました。

これまで何事もなく社会人生活を送って来られたのは、先輩方のご指導及び支えがあったからこそだと思います。心より御礼申し上げます。

昨年はプライベートで色々な人と関わる事ができ、話を聞く中でそれぞれが夢に向かって頑張る姿にとても感銘を受けました。自分のなりた姿や、やりたい事はどういうことなのかを見直す良い機会になりました。

今年「思い立ったら即行動」「失敗を恐れず新しいことに挑戦する」を目標に自分自身が成長できるように頑張りたいと思います。

最後になりますが、同窓会員の皆様健康でより良い1年となりますことを祈念いたしまして、新年の抱負とさせていただきます。



令和6年度秋の「黄綬褒章」を高橋忍氏(72卒・那珂)が受章!!



この度、令和6年度秋の褒章に際し、図らずも黄綬褒章の榮譽に

欲しました。11月26日(火) ホテルニューオータニにて伝達を受け皇居に参内し、宮殿内「春秋の間」にて天皇陛下に拝謁の榮を賜りましたことは身に余る光榮です。

この受章は日立ハイテクグループの『高度な技術』と『正直なモノづくり』が製品を通じ社会貢献として世の中や国より高い評価を受けた証であり、私の僅かばかりの功績が会社を代表し拝受させていただいたものと心得ております。これも偏に事業所幹部はじめ、これまでご指導を



賜った上長と職場の方々、そして母校である日立工業専修学校、日工同窓会のおかげと感謝に堪えません。

私は日専校溶接科で溶接技能員としての基礎を学びましたが、旧日立工場の溶接学校にて、同級生7名で暑い夏に塩を舐めながら水を飲み、被覆アーク溶接の実習に励んだことを昨日の事のように思い出します。

1987年に旧那珂工場に配属となり、部品接合や評価に携わってききました。技能五輪を経験したわけでもなく輝かしい実績も持ち合わせませんが、良き指導者に恵まれ事業所の有する高度な技術の具現化に奔走した事で技能向上にも繋がったと考えます。

ここ数年、特称会の交流で各事業所にお邪魔する機会が増えました。昔から掲げてある『打ち込め魂、仕事の上に!』のスローガンをみると日立人としての誇りを覚えます。奇しくも小平浪平翁の生誕150年の節目に受章できたことは、人づくりの原点である日専校・日工同窓会の代表でもあると

心得ます。

これまでに受章された諸先輩方と肩を並べるのは甚だ烏滸がましい限りですが「日立精神」をもとに、更なる社業発展に寄与して参る所存です。引き続き、皆様のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。受章の挨拶とさせていただきます。

令和6年度茨城県技能者表彰
2名が受賞(県知事表彰)

城定 晃氏(76卒・土浦)



大型産業機械である圧縮機やポンプ、送風機などの製造・溶接作業

業に長年従事。原子力発電所用ポンプなどの溶接の第一人者。豊富な経験と高い技能により、作業の標準化と製品の安全性、信頼性向上に貢献してきた。

現場の作業改善、国内外の多くの技能者に技能を惜しまず提供し、後進の育成に尽力している。

濱田 千泉氏(79卒・水戸)



エレベーター及びエスカレーターの制御盤電気配線組立に長年

従事。制御盤組立における配線等、

第62回 技能五輪全国大会

入賞者紹介

金・銀・銅賞は、1面で紹介した。ここでは「敢闘賞」入賞者を紹介する。



メカトロニクス
伊藤 和真氏
(107卒・佐和)



メカトロニクス
三津山 勲氏
(107卒・日立
Astemo山梨)



電気溶接
大内 雄斗氏
(108卒・水戸)



電気溶接
塩田 琉偉氏
(108卒・笠戸)

作業性向上を図った工夫・改善から生産進捗の見える化まで、幅広く貢献した。

事業所内競技会の競技委員を務めるなど、若手技能者の指導育成においても手腕を発揮している。

第62回技能五輪全国大会入賞者(日立グループ)

	出場者数	金	銀	銅	敢闘賞
第62回	41	2	8	2	8
第61回	39	0	6	7	13
第60回	39	3	5	3	13



フライス盤
副島 蓮氏
(109卒・那珂)



プラスチック金型
北條 陽氏
(109卒・日立
Astemo厚木)



プラスチック金型
三代 健人氏
(109卒・多賀)



電気溶接
佐藤 琉氏
(109卒・日立)

学校だより

2024年

11月から12月までの資格試験一覧

この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。

●11月15日 計算技術検定

●12月14日 危険物取扱検定

1年生が社史見学を実施

日立の歴史を学ぶ

10月15日、好天のもと社史見学会を実施した。今年度も日立オリジンパーク・熊野神社・日鉱記念館を2班に分かれて見学した。オリジンパークでは班毎に、案内者をつけてご対応をいただいた。また、熊野神社では神社説明、参拝の作法に加え、全員に御札まで授けていた



社史見学(日立オリジンパーク)

だき、大変心に残る参拝となった。

今回も各見学場所でクイズが出題されたため、みな100点満点をめざし興味を持って見学に臨んでいた。加えて事前学習した日立100問100答の言葉が各所で現れ、実地でそれらを確認することで、確実に社史を身につけることができた。今後、も社史見学会を日立製作所と日専校の歴史を实地で学べる貴重な機会と位置づけ継続実施していく。

1年生が日立ビルシステム水戸事業所を見学



事業所見学(HBS 水戸事業所)

今回、日立ビルシステム水戸事業所様にご協力いただき、事業所見学をすることができた。業務多忙の中、10月21日から3日間(クラスごと)に渡り、本校生の見学を受け入れてくださった事業所の皆様に御礼申し上げます。この見学は、来年度2年次からの科分けに関するキャリア教育

育として位置づけており、「実際に製造現場を見学することで、将来の自分像を持たせること」「自分のキャリアを考えさせ、科選択につなげていけるようにすること」を目的としている。電気・機械・溶接の各現場を見学させていただき、生徒は将来の働くイメージが構築できたようである。以下、生徒が作成した報告書の感想を掲載させていただく。

・職場の空気を直に自分の目で見る
ことができ、どのような感じなのか分かり、今後の進路選択の参考になった。

・自分も早く日立グループの一員として人々の役に立てるようになりたいと思った。実習や勉強、部活を通して人間力向上に励んでいきたい。
・安全にも力を入れていることが、実際に見て学ぶことができた。また、働いている方々は安全をしっかりと守って作業されていることが、大変良く分かった。

・どの製品においても、必ず試験を行って安全に使用できるか確認してから出荷していることを知り、自分たちが製品を安全に使えることへの喜びを感じた。また、お客様の気持ちを考え、安全で便利な良い製品の製造に関わりたかった。

考動アクション委員会報告

2年電気科 菅野 昂流

この度、日専校のリーダーとして



考動アクション委員長を務めることになりました。菅野昂流です。学校

のチームリーダーは生徒全員を導くことが大切で、そうした仕事ができる嬉しさがある反面、不安や任せられる責任感で身が引き締まる思いです。しかし、それに打ち勝つことで真のリーダーとなり、充実感や達成感を得られるように頑張りたいと思います。



考動アクション委員会

今年度の生徒スローガンは「すべてにおいてトップレベルの人財になる生徒」です。このスローガンは工場でも活躍できる人財になるために立てました。「トップレベルの人財」とは、会社・工場が求めている、人間力・技能技術力・即戦力が高い人材のことです。そうなるためには、生徒一人ひとりが、自主的に行動す

ること、向上心をもって行動すること、リーダーシップやフオロワースキップの力をつけることで達成できると考えています。

リーダーとしての活動目標は主に3つあります。1つ目は生徒が成長するための土台づくりをします。その土台から個々の自己成長を築いてもらいます。2つ目は模範となつて行動することです。自分たちリーダーが模範となることで、個々の課題を見つけて、改善、対策する力を身に付けてもらいたいと思います。3つ目は相互指摘の意識向上です。生徒間で指摘し合うことにより、マナーやモラルの向上、気づき力を付けることができると思っています。

次に主な活動内容です。まず、考動アクション委員会の3つの内部組織である、学校委員会、寮委員会、部活動委員会の各委員長と話し合いを行い、各活動内容の共有、他委員会からの意見収集を行います。そしてそれを縦方向に展開します。例えば、学校委員会では、委員会から各クラスへアドバイスをを行い、クラス活動の改善をサポートします。部活動委員会では、各部長と話し合いを行い、部活動の問題点を共有して、改善案を作成してもらいます。そうした活動を全校集会の場で発表することで、生徒全員が成長する機会を作ろうと思っています。自分に直接

(8頁へ続く)

(7頁の続き)

関係することだけではなく、様々な取り組みを知り、見識を広げて、気付き能力を高めていきたいと思っています。私自身としては、リーダーという自覚を日頃から意識をして生活をしていき、日専校の生徒全員と一緒に成長していけるようにしていきたいです。また、考動アクション委員のメンバーと共に、時間をかけ学校を更により良いものにしていきたいです。そのためにも、「自分から」「自分たちから」という意識で物事を展開していき、生徒たちを良い方向に導いていけるそんな存在になれるように頑張りたいと思います。

技能五輪全国大会

電気溶接職種出場

11月22日から25日までの4日間、第62回技能五輪全国大会（電気溶接職種）に3年溶接科の益山松選手が茨城県代表として出場した。千葉市の高度ポリテクセンタで競技が行われ、各都道府県の予選を勝ち抜いた社会人選手と肩を並べての大会出場である。競技本番では、普段から感情を表に出すタイプでない選手だが、緊張している様子もなく、穏やかな表情で競技開始を迎えた。競技が始まると今までに見せたことが無い素早い動作で作業をする姿を見て、逆に何かミスをするのではないかとハラハラして見守っていた。やるべき作業を外した箇所についても、作業

を進める中で本人が気付く、課題判定に影響が出るようなミスにはならなかった。競技が進むにつれ落ち着きを取り戻し、今まで行ってきた訓練の成果を出して課題を製作し、時間内に課題を無事に提出した。競技終了後に本人に確認すると、「作業開始後にどんな状況だったのか思い出せない」「日ごろの訓練の大切さが分かりました」と話してくれた。

技能五輪全国大会出場を通して、技能成熟の難しさなど多くの学びを得る機会になったと思う。

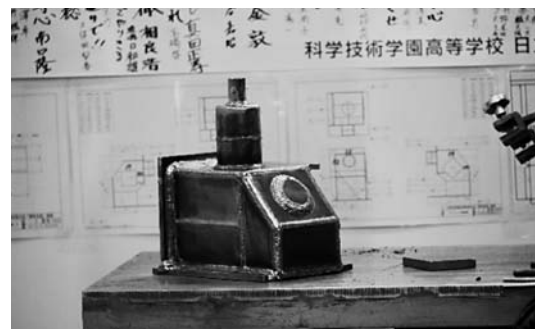
3年溶接科 益山 松



第62回技能五輪全国大会（電気溶接職種）に出場した3年溶接科の益山松です。この度、全国大会への出場を果たすことができたのは、これまで日々の訓練で指導いただいた



競技中の益山選手



競技課題の圧力容器

湯ノ口先生、金澤先生をはじめ、多くの方々のサポートのお陰であり、感謝の気持ちでいっぱいです。また、大会前には先生方や友人からたくさん励ましの言葉をいただき、ありがとうございました。全国大会では、訓練以上のことはできないということを感じ、日々の訓練の大切さを再認識しました。閉会式では先輩方の嬉しそうな顔や悔しそうな顔を間近で見、これから自分が挑戦しようとしている勝負の世界を改めて実感しました。また、私にとって、これまでの日々の訓練、県大会や全国大会への出場は、貴重な時間であり財産です。この経験を今後の会社生活に活かしていきたいです。

2025年度生の入学試験

本校含む4会場で実施

12月4日、5日の両日、2025

年度生の入学試験を本校及びつくば市、青森市、下松市（山口県）の4会場で実施した。近年、少子化の影響が顕著に現れ、近隣の県立高校では定員割れする学校も多く、受験生の確保に苦労している。日専校では優秀な人材を確保すべく、従業員向けの説明会の開催、小・中学生を対象とした出前授業を実施するなど幅広くPR活動を展開している。また、今年度は下松市に加えて新たに、青森市、弘前市、八戸市でも学校説明会を開催した。更にメディア（青森放送、青森朝日放送）を活用した広報活動も展開。その結果、昨年度を上回る受験生を確保することができたが、今後も生徒募集活動において苦戦が予想される。同窓会員の皆様には、引き続きお知り合いの方々に日専校の紹介をお願いしたい。



入学試験(本校)

技能五輪交流会を開催

8事業所が来校



技能五輪交流会

12月13日、技能五輪で活躍できる選手の育成を目的とし、2年生55名を対象とした第1回技能五輪交流会を開催した。当日は、グローバル人材開発部石川担当部長をはじめ、日立グループで技能五輪に出場している8事業所から、全社や事業所の技能五輪事務局や選手の指導員19名の皆さんが来校され、事業所の概要、技能五輪職種、指導体制、訓練内容等について説明いただいた。質疑応答の時間では、生徒から多くの質問が出され、それぞれに対して丁寧に回答いただいた。生徒は技能五輪だけでなく、就職予定先の事業所についても理解を深めることができ、大変有意義な時間となった。

新年のご挨拶

副会長・本部会員運営委員会主査 上野 栄一(54卒)



本部会員の皆様
明けましておめで
とうござ
います。

2025年は皆様にとりまして、どんな希望に満ちた年でしょうか。

2024年の活動を振り返りますとまずは目玉の行事として第50回「わが宿の集い」を11月に同窓会館で開催致しました。

今回は初めて今泉会長と鈴木祐一代表副会長をお招きしました。今泉会長からは今後の日専校の明るい将来展望のお話があり大変感激いたしました。

さらに趣向を変えて本部会員の親睦を深める懇親会をメインとし、企画小主査である小室料理長のもと、役員手作りによる豪華な温かい料理で大変盛り上がりしました。

また、今回は50回の節目の「我が宿の集い」であり関 正治氏(43卒)から抽選会の商品として高価なノート型パソコンの無償提供があり、抽選会で箭内光人氏(63卒)が見事当選。大喜びの箭内氏に参加者の皆さ

んから万雷の拍手が沸きました。

次に鵜の岬で実施した7月と11月のグランドゴルフも大変好評でした。5月に実施した第4回ボランティア活動では、多くの方にお手伝いをいただき、100周年記念事業で植樹した桜の木周辺が綺麗に整備されました。

作業後恒例の小室料理長特製カレーうどんは、お代わりが出るほど好評でした。ごちそうさまでした。

また、新しい活動として役員経験者の皆さんをメンバーとした「日工同窓会の在り方検討会」を立ち上げ、11月と12月に、今後同窓会がどうあるべきかを議論しました。今後も継続し、同窓会活動の方向付けをしていきたいと思っております。

以上2024年の行事を振り返ってまいりましたが、実り多い一年であつたかと思ひます。

2025年も本部会員の皆様が多数参加していただける行事を役員の方々と計画、立案、実施して行きたいと思ひます。是非、ご参加下さい。最後に令和7年度が本部会員の皆様にとりまして幸多き年で有ります事を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

第3回グランドゴルフ大会開催される!

11月29日(金)、7月の第2回大会に引き続き第3回のグランドゴルフ大会が、鵜の岬特設コースにて行われました。参加者は前回より5人少ない18人。この上ない晴天のなか行われました。

幹事集合の7時半には多くの参加者も集合して一緒にコース設営を行いました。

会場の都合で予定の10月開催より約1か月遅れの開催となりました。

8時には全員が集合し、8時半には開会式と記念撮影が行われました。参加者を4組に分け2組ずつ「はまなす」「しおさい」それぞれのコースに別れ、企画小委員会小室主査のホイッスルを合図に同時スタート。後半は逆のコースを回り、ホールインワンも多数あり、和気あいあいのうちに全24ホールを全員がプレーを終えました。

昼食は鵜の岬本館の大広間に場所を移し、表彰式と豪華な会食が行われました。

なお、今回の第4回は、豪華な食事や温泉入浴が格安で出来る鵜の岬も良いが、奥様同伴の大会や参加者を増やすため開催時間や曜日の変更により格安な別会場にて行うなど多数の意見をいただきました。

結果は次の通り

なんと最高齢の安氏が優勝

優勝 安 正善氏(41卒)

スコア 59

準優勝 石井 浩氏(58卒)

スコア 60

第三位 木植登美雄氏(51卒)

スコア 62

◎ホールインワン賞

小林 裕満氏(46卒)

鈴木 穂積氏(46卒)

木植登美雄氏(51卒)

佐藤 茂次氏(53卒)
佐藤 彰吾氏(58卒)
石井 浩氏(58卒)



優勝の安氏(右)



ホールインワン達成の皆さん

なお、地区対抗表彰は、地区参加人数が規定の人数に達しなかったため、今回は無しとなりました。

田中 満(59卒)

日立中央地区

第8回親睦会を開催

11月16日(土)「レストランしいな」にて親睦会を開催した。

48人中参加者13人と少ない参加者であったが、定刻には全員が集合し、玄関にて集合写真を撮り親睦会のスタートとなった。

大内副地区長司会のもと杉山地区長の挨拶、そして待ちに待った乾杯。本部会員運営委員会総務小委員会荻野主査と企画小委員会小室主査から本部状況報告を頂き、全員が自己紹介を含む近況報告を行った。

参加者43回卒から68回卒まで、現役延長で仕事を継続する方や地域貢献の仕事や趣味など、さまざまな事を行っている方がおり、時間が過ぎ

ることを忘れ会話が弾んだ。

なお、現在も色々な分野で活躍している方が多く、さすが日専校と感じた。なかでも85才で同好会の代表を務める関正治氏(43卒)は、現在でもパソコンに詳しく驚きと感銘を受けた。

そして、参加者最年長でもある関氏提供のパソコンが当たる抽選会を行い、見事59回卒小室氏が当選した。来年度は2回の親睦会を計画し、「わが宿の集い」に参加した会員の提案で、春には同窓会会館の広場を活用したバーベキューの開催を約束して散会した。

松崎 清英(61卒)

日立中部I地区

参加者減少でも盛り上がった第19回懇親会

11月28日に、第19回中部I地区懇親会が、神代光昭氏(48卒)の経営する池の川末廣にて開催された。

参加者は、本部の副会長であり本部会員運営委員会主査の上野栄一氏(54卒)、地区活動小委員会主査の関根幸一氏(44卒)を含め12名。前回に比べ半減したが、かなり盛り上がった懇親会となり2時間30分が短く感じられた。

冒頭、逝去された上野武氏(46卒)に黙とうを捧げた。

地区長

の岡部健氏(50卒)

は、「参加者の減少でもこの会は毎年開催し、楽しい会にしたい」と力強く述べられた。

本部副会長の上野氏は学校、同窓会の状況を報告、関根氏は「体調は万全ではないが、楽しみにしていた」と挨拶された。

最長老の安氏(41卒)による乾杯の音頭で宴に入った。

参加者全員の近況報告では、奥さんの負担を減らすために家事に励んでいるなど、それぞれ分野は違っても何らかの活動をしているようだ。いつもの余興は、安氏と神代氏に私を加えた「池の川トリオ」のハーモニカ伴奏で校歌、吉田メロディー等を皆で歌った。

神代氏は、県知事より東京の茨城アンテナショップへ竹灯り(竹細工)の出席を要請され、それに応じたことであった。

来年は実に20回の節目の懇親会となる訳で、いつもとは違う盛大で楽しい懇親会を期待したい。

榊原 愛正(53卒)



コラム

「こだわり人生」第5回

小島 喜代一(48卒)

名簿システム

作成始めるも苦戦

各支部からのデータがそろい名簿作成を始めた。

ソフトは会員が約一万人になることとデータベースなのでアクセスにした。

簡単に考えていたが素人には難しい。文字通り泥縄式になるがアクセスの入門テキストを購入し、真似することにした。真似するといつても目的にそっくりな例は掲載されているがズバリのものはない。

現役のところはエクセルはある程度使ったがアクセスは初めてだ。エクセルとはデータの持ち方が全然違う。

会員を登録し、検索、編集、印刷毎にメニューを作成しマクロで操作する。

キーは会員番号すなわち卒回別の一環番号とした。私の場合は48019である。この会員番号に支部氏名、住所などを紐付けする。

データベースを基準にするので、たとえば斎藤、斎藤、斎藤も区別が

必要で手書きの場合のように斎藤と略すことは不可能である。

名簿システムの作成にあたり、一切手書きすることなく、全てデータの値を用いることを基準とした。

各項目を細分化した。例えば会員の区分を正会員、本部会員、事務局管轄の特別正会員、校長や先生方を学校関係者とした。また、支部名から近隣支部と遠隔支部の別を判断するなどの判断機能を取り入れた。

名簿システムの完成により、本部会員の地区別名簿などの検索・印刷機能や本部会員向けの会報配布用封筒の印刷など印刷機能が充実した。

いろいろな会で活きた会員名簿が常にメンテナンスされていることが会の動き、活性化を表している。

支部から提出される月報は、結婚・支部移動など会員の動きを表す提出された月報は同窓会事務局で会員の動向をメンテナンス。従来は手動だったが動きを判断して自動的に会員名簿をメンテナンスするとともに、会報の原稿を作成出来るようにプログラミングした。また、月報提出をフォローすることとした。

このように事務局で作成・メンテナンスするあらゆる事柄を手書きからデジタルに換え、効率向上を図った。マクロはエクセルの関数を使用し、全体的なつなぎをまとめた。

日専校歴史写真【17】「小平さんと日専校」1916(大正5)年

【3回生と小平さん、高尾さん】1916(大正5)年

小平浪平創業社長が写っている日専校歴史写真は2枚が残っている。これは古い方の1枚である。

1914(大正3)年8月に第1回の卒業生が2名、1915(大正4)年が9名、1916(大正5)年10月に13名が卒業した。写真は1916(大正5)年、熊谷貞次氏ほか3卒の生徒たちが工場幹部と一緒に撮影したもの。前列左から初代の徒弟寮監の宮手義雄氏、4番目が高尾直三郎氏、5番目が小平浪平氏。

小平さんが創業と同時に徒弟養成所を創立させた目的は、一言で言うと「品の良い職工さん」を育てることにあつたという。この頃の工員は自分の腕を磨くことで重用され、どの工場でも十分に仕事をこなせ、高給をとることができた。工場側にとっては、優秀な工員をそろえれば能率が上がるため、競って引き抜きが行われた。こうした工員の多くは渡り職人といわれ、企業の理想よりは自分の技能が中心であつた。小平さん

んは電気機械の国産化という大きな理念を達成するためには、大きな視点に立った理解と協力が必要であり、高尾さん、馬場さんら優秀な社員を徒弟の先生にして、自ら優れた工員を育てようとしたのである。

それが後年、1929(昭和4)年日工同窓会創立10年に語った次のことばに表れている。「およそ事業の成否はこれに従事する人の良否によりて決せらる。機械製造工業において特にそのしかるを感ず。わが日立製作所創業の時に当り、最も留意計画せられたるはこの人事問題にして、徒弟養成所の開設もまたこの計画の一部に外ならざりしなり」



1916(大正5)年
3回生と小平さん、高尾さん

【旋盤徒弟生】1913(大正2)年
小平さんは「品の良い職工さん」を育てた。徒弟生は自分の腕を磨くことで重要な仕事をこなした。



1913(大正2)年
旋盤徒弟生

※本連載では日工同窓会報(記念会報含む)から引用する場合がありま

【同窓会ホームページ歴史写真館】
ユーザー名: rekishi
パスワード: oban100

在会35年(75卒)同期会開催!

2024年11月9日(土)、ホテルザスクエア日立において、在会35年(75卒)同期会が開催された。コロナ禍の影響もなく、久しぶりに

同級生と会う機会となり、大いに盛り上がる事ができた。今回、参加者17名と若干少なく、寂しく感じてしまう。そういう私も正直出席するか迷ったのだが、出席して正解だった。それぞれの濃厚な35年間(音話・仕事・プライベート)の話を聞くことができ、モチベーションダウンぎみの自分も、少しだけ皆さんから力を分けていただくことができた。一次会では飲み足らず、二次会・三次会まで話は尽きず、次回の同期会では参加者を増やそうと計画する声も聞かれた。

最後に、本会を企画いただいた同窓会本部役員の方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

岡部 悟(日研)



第54回茨城県職業能力 開発促進大会表彰者

*技能五輪関係、褒章、現代の名工等は、未掲載となります。

◎茨城県技能者表彰(県知事表彰)
アーク溶接工

城定 晃氏(76卒・土浦)
配電盤制御盤開閉制御機器組立工

濱田 千泉氏(79卒・水戸)
◎多能技能士・協会長感謝状

電子機器組立て等3職種
原田 和彦氏(79卒・水戸)

阿部 正美氏(89卒・佐和)
電気機器組立て等3職種

須永 雷介氏(92卒・大みか)
機械加工等4作業

海老根章友氏(89卒・那珂)
畔蒜 雄介氏(93卒・那珂)

内田 翔吾氏(96卒・佐和)
仕上げ等3職種

岡崎 聖也氏(99卒・佐和)
機械加工等3職種

勝野 敬太氏(100卒・佐和)
◎ものづくりマイスター認定者

電子機器組立て
安島 哲也氏(83卒・那珂)

鈴木 隆一氏(83卒・水戸)
仕上げ

井出 理氏(79卒・土浦)
機械加工

松浦 駿一氏(83卒・那珂)
横須賀聡史氏(84卒・日立)

工場電気設備



田中 秀貴 (109卒) 社会 (大みか)

工場電気設備



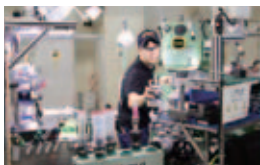
渡部 晴雅 (108卒) 社会 (大みか)

技能五輪競技風景

(課題に取り組む選手達)

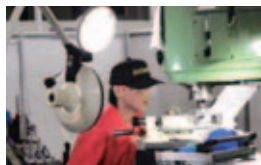


フライス盤



副島 蓮 (109卒) 日立ハイテク

プラスチック金型



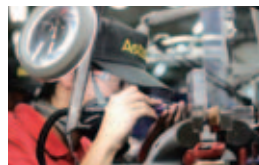
北條 陽 (109卒) 日立Astemo (厚木)

プラスチック金型



三代 健人 (109卒) 日立GLS (多賀)

プラスチック金型



野尻 佳希 (108卒) 日立Astemo (佐和)

プラスチック金型



小澤 優太郎 (108卒) 日立GLS (多賀)

精密機器組立て



軽部 祐太 (109卒) 日立Astemo (福島)

精密機器組立て



栗原 歩夢 (109卒) 日立GLS (多賀)

精密機器組立て



小河原 悟史 (108卒) 日立Astemo (山梨)

精密機器組立て



関根 一輝 (108卒) 日立Astemo (佐和)

精密機器組立て



飯村 琉真 (108卒) 日立GLS (多賀)

電子機器組立て



横山 昊聖 (109卒) 鉄道 (水戸)

旋 盤



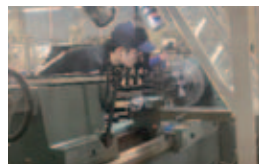
西野 王翔 (109卒) 原子力 (日立)

旋 盤



後藤 宙那 (109卒) 日立ハイテク

旋 盤



郡司 煌都 (108卒) 日立イブ (土浦)

旋 盤



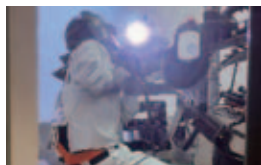
片野 諒人 (108卒) 鉄道 (笠戸)

電子機器組立て



小口 心穂 (109卒) HBS (水戸)

電気溶接



寺門 楓真 (107卒) 原子力 (日立)

構造物鉄工



谷田部 寿崇 (109卒) 原子力 (日立)

構造物鉄工



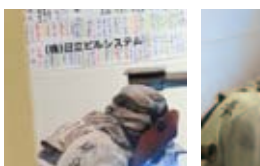
伊藤 光希 (108卒) 日立産機 (勝田)

構造物鉄工



竹田 昂 (107卒) 原子力 (日立)

電気溶接

大内 雄斗 (108卒)
HBS (水戸)

電気溶接

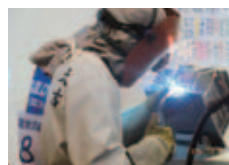
佐藤 拳 (108卒)
鉄道 (水戸)

電気溶接



大曾根 陸 (109卒) 日立イブ (土浦)

電気溶接



中條 大吉 (109卒) HBS (水戸)

電気溶接



佐藤 琉 (109卒) 原子力 (日立)

電気溶接



風間 湧太 (108卒) 日立イブ (土浦)

メカトロニクス

左: 堀内 涼 (108卒) 日立GLS (多賀)
右: 関根 大翔 (108卒) 日立GLS (多賀)

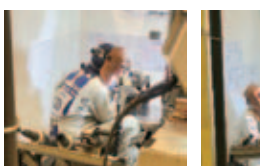
メカトロニクス

左: 三津山 勲 (107卒) 日立Astemo (山梨)
右: 伊藤 和真 (107卒) 日立Astemo (佐和)

メカトロニクス

左: 伊藤 卓真 (107卒) 日立ハイテク
右: 小倉 旭陽 (107卒) 日立ハイテク

電気溶接

塩田 琉偉 (108卒)
鉄道 (笠戸)

電気溶接

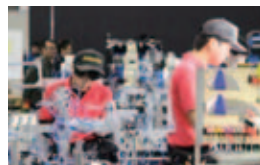
黒田 大貴 (109卒)
鉄道 (笠戸)

メカトロニクス



右: 神白 大晴 (109卒) 日立GLS (多賀)

メカトロニクス

左: 筑堀 魁 (109卒) 日立Astemo (厚木)
右: 藤田 竜乃介 (109卒) 日立Astemo (佐和)

メカトロニクス

左: 川部 直生 (108卒) 日立ハイテク
右: 大野 虎太郎 (108卒) 日立ハイテク